

## 1 研究主題

「生きる力」を育む効果的な教育活動の在り方  
 -小・中学校で一貫した共通実践を通して-

## 2 主題設定の理由

知識基盤社会化やグローバル化の進展に伴い、各学校では、児童生徒に、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことが求められている。

そのためには、地域社会や家庭との連携を深めるとともに、児童生徒の実態を踏まえ、9年間の学びの連続性を生かしながら、発達段階に応じた指導を充実させていかなければならないと考えた。そこで、これまでの研究の成果と課題を踏まえ、小・中学校が連携を密にし、一貫した効果的な指導の在り方を明らかにすることで、児童生徒の「生きる力」を育む教育活動を展開できると考え、本研究主題を設定した。

## 3 研究の視点

- 生きる力を育成するために、児童生徒に「確かな学力」を身に付けさせる学習指導の展開
- 基本的な生活習慣を定着させるための、小・中で一貫した生徒指導の推進
- 個に応じた支援の充実を図るための児童生徒の「学び方」に応じた指導支援の充実

## 4 研修の日程

期日	活動内容	場所
5月15日(月)	分科会協議資料提案, 参加者確認書送付	
6月1日(木)	推進員会 小中連携研修会に向けての打ち合わせ (テーマ, 議題の確認, 提出資料の確認)	南中
6/2~6/18	学校ごとにテーマに沿って研修, 協議, 資料作成	
6月19日(月)	小中連携研修会(共通実践等) 各学校担当者が参加	南中
6/20~	各校, 分科会でまとめ作成後, 実践	
1月12日(金)	科会協議資料提案等送付	
2月6日(水)	小中連携研修会(まとめ, 次年度に向けて) 各学校担当者が参加	南中

## 5 研究の実際

### (1) 共通実践事項

学力向上部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実態に応じた指導の工夫</li> <li>○ ICT 活躍成果と課題をまとめる</li> </ul>
生徒指導部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ いじめ防止, 不登校児童・生徒解消への対応</li> <li>○ SNS 等オンライントラブルへの対応</li> <li>○ 保護者対応</li> </ul>

特別支援部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個に応じた指導の工夫</li> <li>○ 進路情報の提供</li> </ul>
--------	---

(2) 各校取組の様子

学力向上部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高学年における一部教科担任制の導入</li> <li>○ タブレットを活用した家庭学習への取り組み</li> <li>○ ICT 活用をテーマとした職員研修を通じた職員のスキル向上</li> <li>○ 各教科におけるタブレットを活用した授業展開</li> <li>○ デジタル教科書やビデオ教材の活用</li> <li>○ 習熟度別学習</li> </ul>
生徒指導部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ タブレットを活用した「学校生活アンケート」の作成・実施 ・中学生・高学年は、タブレットで実施、低学年は紙面実施 ・気になる回答へは直接聞き取りで対応</li> <li>○ PTA総会で、学校長が保護者に対して、SNS 等のオンライントラブルへの対応の学校の方針を周知</li> <li>○ 学校外の外部機関との積極的な連携</li> </ul>
特別支援部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個に応じた教材研究の充実(ICT やワークシートの活用も含めて)</li> <li>○ 校内研修や特別支援教育推進委員会の充実 (情報共有や支援方法の検討・チェックリストの活用など)</li> <li>○ 学力や特性に応じた時間割の作成(進路別の個別学習ができるよう配慮)</li> <li>○ 個別の指導計画や支援計画を作成, 見直し, 再検討を行った。</li> <li>○ 保護者との教育相談を実施(ニーズに合わせた支援の検討)</li> <li>○ 保護者説明会で, 卒業後の進路先や各高校の受験(検)に係る条件などを説明</li> </ul>

(3) 成果

学力向上部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材研究が充実し, より分かりやすい効果的な指導につながった。</li> <li>○ ロイロノートを授業で活用できる場面が増え, 児童・生徒が学習への興味を高めることにつながった。</li> <li>○ 家庭学習への取り組みの確認が容易となり, 児童・生徒への効果的な指導ができるようになった。</li> <li>○ 教え合い学習を通して, お互いができるようになりたいという気持ちが高まり, 学習意欲向上につながった</li> </ul>
生徒指導部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アンケート結果を職員全体で共有することで, 未然防止に努めることができた。</li> <li>○ 安易にオンライントラブルの解決を学校に求めることへの抑止となった。</li> <li>○ SSW, SC と積極的に連携を図り, 諸事例に対応できた。</li> </ul>
特別支援部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ それぞれの進路に応じた学習ができるよう時間割の調整を行うことができた。</li> <li>○ タブレットを活用することで, 学習に取り組みやすくなった。</li> <li>○ 保護者との連携を図ることで, 児童生徒の具体的な支援方法</li> </ul>

	<p>を共有することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保護者説明会を実施し、ある程度の進路情報を提供できた。</li> <li>○ チェックリストの活用で、支援方法のヒントを得ることができた。</li> <li>○ 児童生徒が「わかる・できる」という自信が持てるよう授業の組み立てや教材の使い方を工夫した。</li> </ul>
--	--

(4) 課題

学力向上部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の発達段階に応じた ICT 機器の活用内容の研究と共通理解が必要である。</li> <li>○ タブレットでの学習と紙での学習のどちらが適しているのかを判断し、課題を出すなどの出題方法の見極めが難しい。</li> </ul>
生徒指導部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アンケートの結果をどのような形で保管するかが課題である。</li> <li>○ 不登校傾向にある児童生徒の家庭との連携や支援体制の方法を見直していく必要がある。</li> </ul>
特別支援部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 異学年の生徒が同じ授業にいる場合、学習の効率が下がることがある。</li> <li>○ タブレットの活用に依存してしまう傾向がある。</li> <li>○ 個別指導計画の活用が今ひとつである。</li> <li>○ 支援学校への進学が望ましいと思われる場合でも、保護者が一般の高校を強く希望する場合がある。(後の就職に結びつかない。)</li> <li>○ 保護者間での情報が優先・錯綜し、就学指導に結びつかない傾向がある。</li> <li>○ 不登校児童・生徒への対応が難しい。(支援方法が見つからない。)</li> </ul>

(5) 次年度に向けて

学力向上部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭学習へ取り組む時間を小・中で共通理解し、家庭学習の習慣が無理なく身に付くような取組の計画を立てさせる。</li> <li>○ 中学校の定期テスト期間に合わせた「家庭学習強化週間」の設定を小中同じ時期に行う。</li> <li>○ 中学校の家庭学習に対する指導内容やタブレットの活用状況についての情報共有を行う。</li> </ul>
生徒指導部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員全体で共通理解した後に対応を継続していく。</li> <li>○ 教科や道徳、特別活動等において、人権意識や他者との関わり方について学ぶ指導を継続していく。</li> </ul>
特別支援部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 次年度も三校合同交流会を実施する。(南小学校担当)</li> <li>○ 今年度中に新入生の引継ぎ会(連絡会)を設け、入学当初、できるだけスムーズにスタートできるようにする。</li> </ul>